



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099(226)5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# 求められる「キリストが土台の共同体」

## 移転・新築の加世田教会

1956年に献堂された加世田教会が移転・新築され、その献堂式が7月22日(日)午後、現地であった。献堂から62年が経過し老朽化していた教会から生まれ変わり、加世田教会は喜びで満たされ、今後は共同体の質を高めていくことを誓い合った。

郡山健次郎司教は7月22日(日)午後、カトリック加世田教会(主任司祭・朴鎮亮神父)の移転・新築に伴う献堂式を司式した。

旧加世田教会は、学校法人聖マリア学園「加世田聖母幼稚園」(江籠忠好園長)と同居するように同じ敷地内に立っていた。このたび移転・新築工事の運びとなったのは、加世田聖母幼稚園園舎の老朽化はもとより、同園が認定こども園へと移行する際に園施設を

充実させるための幼稚園新築工事が決定した際に、園庭を広く活用するために教会の移転を加世田教会と教区に願ったことから。そのため幼稚園が宗教法人から教区所有の教会と幼稚園が立っていた土地を買い取り、その土地代が教会の建設費用に充てられた。計画当初は、教会はこれまでと同様に同じ敷地に同居して建てられる予定だったが、幼稚園が駐車場として利用するために購入していた隣接地への教会建設案が採択され、移転の運びとなった。



新しくなった加世田教会

新しい教会(南さつま市加世田本町35-15)は、白を基調とした鉄筋コンクリート造2階建。一階に聖堂と納骨堂、二階が司祭館となっている。設計を田代設計工房、施工には株式会社上東建設が当たった。総工費は、設計監理料、幼稚園が駐車場として使う予定だった土地の購

入費用など含めて約6400万円。献堂式のミサで説教した郡山司教は、設計・施工に当たった関係者に謝辞を述べた後、この日の朗読「聖パウロのコリントの信徒への手紙」から次のようなメッセージを送った。ペトロと同様にカトリックのリーダーの双壁とも言えるパウロは、キリストの

死後30年ほど経ってから活躍したが、もともとはキリスト教徒を迫害してきた人物だった。回心してからの



加世田教会聖堂

## ザビエル祭の意義を再確認

### 今年の聖師上陸記念ミサ

8月11日(土)午前9時から鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で「聖フランシスコ・ザビエル鹿兒島上陸記念ミサ」がささげられた。昨年同様、「山の日」にささげられたミサだが今年

は、まずお告げの鐘が打ち鳴らされ、その後、桃菌助祭によってザビエル書簡が朗読された。書簡の朗読後は郡山司教が挨拶し、全員で「聖フランシスコ・ザビエルの取次を願う祈り」を唱え、主聖堂へ入堂した。



マルコによる福音書が朗読された後説教した郡山司教は、この日の福音(マルコ16:15-20)の「弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した」を取り上げ、私たちにとつての「至るところ」とは、ここに集った皆が帰って行く場所。ことわざ「人間到る処青山あり」とある。キリスト信者である私たちに

**講演会「性暴力と性虐待の影響について」**  
日時: 9月19日(水) 13時30分~15時30分  
場所: ザビエル教会主聖堂  
講師: 中島幸子氏(NPO法人レジリエンス代表 米国法学博士、社会福祉学修士)  
内容: 当事者としての視点と支援者としての経験を踏まえ、性暴力とは何か、そして、性暴力後に生ずる様々な影響について  
参加費: 無料  
主催: 鹿兒島司教区子どもと女性の人權相談室

## 講演会「聖書を発見する」

講師: 本田哲郎神父(フランシスコ会)  
日時: 10月7日(日) 15時開場  
場所: 教区本部会議室  
主催: 鹿兒島カトリック正義と平和協議会  
問合せ: TEL080-1704-8315(山下)

パウロは地中海一帯を伝道旅行し、各地に教会共同体をつくった。今日、朗読されたコリントの信徒への手紙のコリントという町は、今は廃墟となつているがかつては商業で栄えたギリシアの古い町。学問好きな人も多かったという。そのため教会についての議論も度々あり、ついには教会共

同体が分裂してしまった。そんな共同体の姿をパウロはいさめるために、キリストを土台とした教会となるよう、心を、思いを一つにして結び合うよう手紙を送った。私たちが今日、新しい教会をいただいた。しかし気をつけなければ「仏作って魂入れず」と同様、キリストの心を理解してない教会となつてしまふ。教会は野戦病院のようなものと言われる。ここに足を運ぶ人を皆、幸せにしなければならぬ。この共同体から悪口と排除を取り除き、誰もが幸せになれるよう、教会づくりの第2期工事に乗り出していこう。

▼平和の鐘を鳴らそう  
8月15日(水)ザビエル教会で、鹿兒島ユネスコ協会と連合壮年会共催の「平和の鐘を鳴らそう」があった。会場には田中弘允鹿兒島ユネスコ協会名誉会長、郡山司教をはじめ60人余りが出席し、平和に関する講話を聞いた後、正午に鐘を鳴らして平和を祈って黙祷した。またその後は教区本部でカリタスジャパンと鹿兒島カトリック正義と平和協議会共催の集いがあり

「排除ZEROキャンペーン」教皇フランシスコのメッセージ」と「この世界の片隅に」の2本のDVDが上映された。

郡山司教が転居  
8月18日(土)、本部に居住していた郡山司教は旧司教館(鹿兒島市唐湊2丁目10番1号 TEL099-254-11670)に転居した。

## 「短信」

▼カトリック幼稚園教職員研修会  
恒例のカトリック幼稚園教職員研修会が7月25日(水)から2日間、霧島市のホテルで開催された。今年の研修のテーマは「運動」。参加者たちは講師の北富晴美さん(アクティブ教育センター)から熱心に学習した。

# 金祝・銀祝の神父様へ 感謝と今後の活躍をお祈りして

## 司祭団、信徒代表の挨拶

### 司祭団代表 G・ティエン神父

金祝の永山神父様、銀祝の泉神父様、栃尾神父様、おめでとございます。

「日の上るところまで主の御名の賛美されるように。」（詩編113・3）

「今に至るまでわたしは驚くべき御業を語り伝えてきました。わたしが老いて白髪になっても、神よ、どうか捨て去らないでください。」（詩編71・17、18）

本当です。司祭の生活は神様への賛美と感謝のことばになります。

それで、若い時も、年上も、働いても、休むも、元気も、病気も、すべては恵みです。神様は賛美されますように。

いつくしみ深く、その憐れみは永遠です。

25年間の、50年間の、毎日の生活は恵みをたくさんいただいています。25年間、50年間、一所懸命小教区のために、教区のために働いておられました。

大きな仕事として、永山神父様はザビエル教会を建てました。また、聖心教会の大修復を行いました。そして、多くの信者さんたちのために宣教の仕事をされてきました。

信者の皆さんはいつも神父様を思い出して、尊敬して、愛して、祈ります。奄美大島にいた時、私たちが若い司祭は神父様から体験と経験、そして知識を教

えていただきました。これからも、神父様の豊かな知恵を私たちに分けてくださいます。いろいろお世話になりました。どうぞありがとうございました。どうぞよろしくお願いたします。

これから、毎日の生活、聖パウロのことばは永山神父様、泉神父様、栃尾神父様に勧められています。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな

なことに感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」（テサロニケ5・16、18）

### 信徒代表 福田 皓佑

永山神父様、「金祝」おめでとございます。

泉神父様、栃尾神父様、「銀祝」おめでとございます。

若輩者の私が、信徒を代表してお祝いの言葉を述べさせていただくのは、甚だ僭越なのですが、永山神父様からご指名いただいたというので、これまで、私が永山神父様から教えていただいたことや、神父様との思い出をお話しさせていただきます。お祝いと感謝の気持ちを伝えたいです。

私は、産まれて2か月で、ここザビエル教会で洗礼を受けました。その時、洗礼を授けてくださったのが永山神父様でした。もちろんその時の記憶はありませんが、物心ついた時から、私の信仰生活にはいつも永山神父様がいらつしやいました。教会学校でもミサでも、神父様はすべてを包み込んでくれそうな優しい声で私に話しかけてくださったのを覚えています。

6歳になったときから、私は日曜日の侍者をさせていただくことになりました。

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。すべては一つのところに行く。」（コヘレト3・1）

仕事の時も、休むときも、信者さんたちは神父様のことを思っています。それで神父様は安心して、平

今から毎日の生活はいつも喜びと希望を持って生活に行いましょう。コヘレトの言葉は書いています。

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。すべては一つのところに行く。」

（コヘレト3・1）

仕事の時も、休むときも、信者さんたちは神父様のことを思っています。それで神父様は安心して、平

和な心で休んでください。それから、もう一回鹿児島教区の信者さんのために、私たちが一緒に頑張りましょう。

長きに渡って、小教区のために、教区のために頑張つてこられた永山神父様、泉神父様、栃尾神父様の健康と今後の活躍をお祈りいたします。

本当にありがとうございます。（聖心教会主任司祭）

つてきたのを覚えていきます。私が高校に進学するときに、永山神父様は溝辺のマリア山荘へと転任になりました。私にとって、生まれてすぐ洗礼を受けてから10年以上、ザビエル教会の主任神父様は永山神父様でした。だから、その時は特別な寂しさを感しました。

しかし、私と永山神父様の交流はそれで終わりではありませんでした。教会学校のリーダーだったシスター山頭と共に、1年に2、3回、マリア山荘で教会学校の高校生の合宿を行い、そこで、神父様と夕食を食

た。最初は緊張しましたが、永山神父様のお手伝いのできる事がとてもうれしく、ミサの後、控室で個人的に神父様とお話ができることが何か特別な気がして、嬉しく感じていました。その優しさと親しみやすさから、小さな頃から永山神父様を教会のお父さんのような存在のように感じており、私だけでなく、ザビエル教会の信徒一人ひとりと近い距離で接しているのが印象的でした。

永山神父様を中心に、教会が一つにまとまっているのが、小学生の私にも伝わ

べ、聖書の分かち合いを行ったのです。それは、ミサや普段の教会学校とは違った、言葉に言い表せないような特別な時間であり、神様のことを密に考え、祈りを行ったとても内容の濃いものでした。私にとって

は、永山神父様に会える喜びとともに、神父様と話をし、神様のことを真剣に考えることで、信仰をより深めることができ、合宿の前と後では世界が変わる大事な時間でした。

私は、現在、医師として働いています。患者さんと接するとき、いろいろと悩んだり、迷ったりするときがあります。そのときの合宿で、神父様や仲間たちと分かち合った「あしあと」という詩にあるように、神様はいつも自分と共にいてくださるということ

を忘れないようにしています。また、2年前、結婚し、子どもも授かりました。これまでの道のりは、神父様のお祈りや神様の導きによるものであると、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも私たちが導きくださいます。平成30年7月16日（ザビエル教会所属）

と向き合いながら、この歩みが続いていくことができればと思います。永山神父様、これまで50年、教区のために、そして一人ひとりの信者のために、常に、神様にお祈りくださり、心から感謝申し上げます。

最近体調を崩されているとお聞きしていますが、しばらくゆっくりされて、健康になられたら、また、「おお皓佑、元気にしているか。」と言葉を掛けてくださることを楽しみにしています。未熟な私にとつて、これからの道のりには、まだまだ神父様の支えや導きが必要です。

最後に、神様に、永山神父様、泉神父様、栃尾神父様を私たちにいただいたことを心から感謝するとともに、これから神様の方のご健康とご活躍をお祈りして、私のお祝いと感謝の言葉とさせていただきます。

神父様方、おめでとございます。そして、これからも私たちが導きくださいます。平成30年7月16日（ザビエル教会所属）

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。すべては一つのところに行く。」（コヘレト3・1）

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。すべては一つのところに行く。」（コヘレト3・1）



子供たちが金祝・銀祝の司祭に花束を贈呈



**+KABAYAN SEKSYON+**  
**Tutumutugon sa mga Pagkagutom ng mga Dukha**

Ang Asya, kabilang ang Pilipinas, ay isang kontinenteng mayaman sa mga kultura at tradisyon; ang kanyang mga mamamayan ay sagana sa mga makatao at relihiyosong mga pagpapahalaga. Subalit malaking bilang ng mga tao ay dumaranas ng paghihirap, kawalang-lakas, pagbabalewala, pagiging biktima, at pagdurusa. Ang mga taong ito ay hindi dukha sa mga makataong pagpapahalaga at potensyal; dukha sila dahil lamang pinagkakaitan sila ng daan na makamit ang mga materyal na bagay at mga pagkukunan para mabuhay sila nang may dangal.

Wala silang katiyakan sa isang metatag na pamumuhay para sa sarili nila at sa kanilang mga pamilya. Kadalasan, hinahadlangan sila ng mapaniil na panlipunan, pang-ekonomiya at pampulitikang mga balangkas na tamasahin ang isang marangal na buhay.

Tinatawag ang Simbahan na tumulong sa pagtugon sa maraming mga pagkagutom ng mga dukha, sa pagsunod sa halimbawa ni Kristo na kusang-loob na naging dukha upang pagyamanin tayo sa pamamagitan ng kanyang pagiging mahirap (2 Co 8:9).

Nababatid ng isang Kristiyano na anuman ang ginagawa sa kapwa ay sadyang ginawa kay Kristo (Mt.25:40)

Ang isang pamayanang Kristiyano na tunay na Eukaristiko ay magsisikap mabuhay ng payak; makikisangkot din ito sa aktibong pagtulong sa lipunan, naglalayan maging isang pamayanang propetiko-tutumugon sa iba't ibang pagkagutom ng mga dukha.

Sa kalagayang ito, bawat isa sa atin ay tinatawag ng Diyos na maging bukas ang ating mga palad at puso sa pakikibahagi ng mga bagay na materyal sa ating kapwa, at pagsasabuhay ng ebanghelyo. Ang pagbabahagi ng mga materyal na bagay ay malaking tulong sa mga dukha na makaranas din ng mga pagpapala ng Diyos sa pamamagitan ng mga taong may mabubuting kalooban. Hindi nagiging makasarili bagkus bukas ang kanyang mga kamay sa mga dukha, tulad ng ginawa ng Panginoon Hesus, ibinagay niya ang kanyang sarili para tayo ay mabuhay.

**Katesismo sa Taon ng Eukaristiya at Pamilya**  
**(Fr.DinoOrloff)**

# 信じる者になります

## 大熊小教区和光園教会で入信式

4月8日(日)の神のい  
つくしみの主日に大熊教会  
の巡回教会和光園教会で、  
主任司祭タム神父の司式の  
もと、社会福祉法人カリタ  
スの園「白百合の寮」の主  
任指導員・森元隆一さんの



喜びいっぱいの教会共同体

ご家族4人と武田篤人ちや  
んの計5人の入信式が行わ  
れました。  
神父様は説教の中で「信  
じない者ではなく信じる者  
になりなさい」と話され、  
入信式が始まりました。

「あなたは教会に何  
を求めますか」  
澄み切った眼差し  
の智恵さん、智恵さんは  
「信仰を求めます」と  
厳かに信仰宣言。篤人  
ちゃんはお父さんに抱  
かれ、スヤスヤと無の  
境地…。時折、「ウ  
ン、フングユッ」とタ  
イミングの良い受け答  
え。  
式は和やかな雰囲気  
のうちに進行しまし  
た。初めてのご聖体、  
おん血の拝領：緊張と

感動に包まれる中、カリタ  
スのシスター6人全員によ  
る美しい聖歌「世界中どこ  
までも」が響き渡りまし  
た。50数年前に観た映画  
「サウンドオブミュージック  
」を思い出しながら…。  
「行きましよう。主の平  
和のうちに。アレルヤ、ア  
レルヤ」  
「神に感謝。アレルヤ、

アレルヤ」  
こうして滞りなく式は終  
わりました。入信式の場所  
として小さな和光園教会を  
選んでくださったいづくし  
み深い神のほかに感謝  
しながら大熊教会の伝道館  
に会場を移してささやかな  
祝賀会を開き、入信の喜び  
を分かち合いました。(和  
光園教会レポーター)

## 宗教・宗派を超えて平和行進

### 鹿児島県宗教者懇和会

県内の諸宗教の代表者た  
ちが宗教や宗派を超えて話  
し合いの機会を設けている  
「鹿児島県宗教者懇和会」  
(坪田浩一会長)では、今  
年も「8・6平和巡礼原爆  
の火とともに」を実施し  
た。今回で3回目となるこ  
の巡礼では、広島原爆投下  
の日に核廃絶・世界平和を  
願うとともに、8・6水害  
を思い起こし、また西日本

豪雨災害被災者のためにも  
祈りがささげられた。  
この日集まった各宗教・  
宗派の代表者たちは午後4  
時から約一時間、鹿児島市  
内の繁華街で西日本豪雨災  
害被災者のための募金活動  
を行った。その後はザビエ  
ル教会へ会場を移し、平和  
巡礼の開会式を開いた。  
教会主聖堂であった開会  
式を司式したのは郡山健次  
郎司教。郡山司教は、ルカ  
の福音書からキリストの十

## 司教執務室便り

### 信仰の始まりの時は？

旧司教館への引越し作業が始まったばか  
りの8月8日(水)は、ドミニコ会の創立者聖  
ドミニコの記念日だった。

ミサの福音はマタイ15章21節から始まるカ  
ナンの女とイエス様の問答の箇所。「わたし  
を憐れんでください」と懇願する彼女を、子  
犬呼ばわりするイエス様の冷たい言葉にもめ  
げずに、「子犬も主人の食卓から落ちるパン  
屑は頂くのです」と健気に答える彼女に思わ  
ず言われた。

「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。」  
信仰そのものは恵みなので、「立派そのも  
の」でも、人手に渡ると質の違いが生じる。  
その前にちよっと考えたいのは、この女性は  
洗礼を受けたわけではないのに、「あなたの  
信仰は立派だ」と、まるで信者扱い。悪霊に  
苦しめられている娘を何とか楽にしてあげた  
いとの一念から「良く分からないがこのお方

にかけてみよう」と思ったに違  
いない。  
このエピソードは、信仰は洗  
礼によって始まるのではなく、  
またイエス様についてどうい  
うお方なのかすっきり分かったことで始まるの  
でもなく、信仰は、むしろイエス様に対する  
尊敬と畏敬の念が始まると言えることを教え  
ているように思われる。



そんな風に思うと、ミサで唱える信仰宣言  
に求められているのは、確かに信仰そのもの  
ではあるが、イエス様に対する尊敬と畏敬の  
念の深さこそが求められているということに  
ならないか。  
実際、イエスさまが讃えたのは、彼女のめ  
げない一途さであって、信仰宣言ではなかつ  
たことを心に留めたいと思う。

司祭や信者の人間的弱さに傷ついて教会を  
離れる人も少なくない。そうでなくても、顔  
を曇らせ批判したくなることは多いと思う。  
そんなとき、このエピソードは、私たちの指  
針になるように思う。



ザビエル教会を出発する平和行進

## 純心短大「江角学びの交流センター」主催 文化講演会

きばい やんせ  
かごんま  
鹿児島んおごじよ=  
9月16日(日) 12時~  
かごしま県民交流センター

字架上での死の場面を朗読  
した後、「キリストは嘲ら  
れ、不条理な死を迎える場  
面においても誰をも敵とは  
せず、人間の罪のゆるしを  
祈り続けた。世の中では平  
和を壊す者など多くいる。  
だからこそ私たちは何をし  
ているのか知らないそのよ  
うな人たちのために祈るこ  
とで真の平和が築かれるよ  
うにしよう」とメッセージ  
を送った。

その後は末吉神父が、今  
年のカトリック平和旬間日  
本カトリック司教協議会会  
長談話「平和の問題に常に  
関心を」朗読した。その後  
は、集まった80人余りの参  
加者たち全員でアシジの聖  
フランシスコの「平和を願  
う祈り」を唱え、マザーテ  
レサの「わたしをお使いく  
ださい」を合唱して、平和  
巡礼に出発した。

巡礼団一行はザビエル教  
会から平和を訴える鐘を打  
ち鳴らしながら鹿児島市の  
繁華街を通り、西本願寺、  
照国神社を経由して探勝園  
へと歩みを進めた。ゴール  
地点の探勝園では、原爆の  
火が灯され、平和を願う歌  
が歌われた。「4面に司教  
協議会会長談話を掲載」

## 短歌

### 文芸

鳴池教会 前田儀子  
吾と住む医学生の子孫娘医者  
となる日まで吾は生きたし



野牡丹の深紫のひと枝を妹  
に手向くコップに挿して  
尊敬をする人は西郷隆盛と  
吾は就職試験に書きにき  
採られざる歌を再び推敲し  
逝きたる人を歌に遺しぬ

## 会と催し 9月

- 1日(土) 川淵勇神父命日(1997年)
- 2日(日) パストラルケア・教区本部・14時
- 2日(日) 読書会・教区本部・16時
- 2日(日) 年間第22主日
- 2日(日) ▼被造物を大切に作る世界祈願日
- 6日(木) 朴鎮亮神父叙階記念(2015年)
- 8日(土) 聖マリアの誕生
- 8日(土) ▼七田和二郎神父命日(1989年)
- 9日(日) 年間第23主日
- 14日(金) 十字架称賛
- 15日(土) 鹿児島教区司教座教会献堂記念日
- 16日(日) 正義と平和協議会・教区本部・14時
- 16日(日) 年間第24主日
- 18日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 22日(土) 朴昶奎神父叙階記念(2016年)
- 22日(土) ▼MEAアジア会議・教区本部・9時
- 23日(日) 年間第25主日
- 23日(日) ▼李秉徳神父叙階記念(2017年)
- 23日(日) ▼オリブの会・教区本部・14時
- 27日(木) 巡礼委員会主催講演会・ザビエル教会・13時
- 27日(木) ▼世界難民移住移動者の日(献金)
- 27日(木) ▼メニヒ神父叙階記念(1959年)
- 29日(土) 松永正男神父霊名(聖ビンセンチオ)
- 29日(土) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使
- 30日(日) ▼ティエン神父霊名(聖ガブリエル)
- 30日(日) 年間第26主日

## 祈りの意向

【祈禱の使徒会】  
世界共通 アフリカの若者たち  
日本の教会 すべての被造物の尊重

## マリッジ・エンカウンターアジア会議閉会ミサのご案内

ワールドワイド・マリッジエンカウンターのアジア会議  
が、日本を含むアジア12カ国の代表が出席して鹿児島で開  
催されます。9月17日から22日は霧島のホテルで養成プロ  
グラムなどが行われ、22日午後は会場をザビエル教会に移  
して閉会ミサが執り行われます。  
日本における信仰発祥の地で、インドをはじめ各国から  
司祭と夫婦たちが集うという歴史的な慶事をできるだけ多  
くの皆さまと祝いたいと思います。各国代表者が民族衣装  
をまとうて参列する国際色豊かな記念のミサに、どなたで  
もご参列くださるようお待ちいたしております。

日時：平成30年9月22日(土) 16時  
司式：郡山健次郎司教 場所：ザビエル教会主聖堂

## ザビエル書院からお知らせ

2019年用「カレンダー」「手帳」を販売いたしま  
す。お早めにお求めください。

# 平和の問題に常に関心を

## 平和旬間「日本カトリック司教協議会」会長談話

昨年暮れにフランシスコ教皇様は、「焼き場に立つ少年」の写真に目をとめられ、「戦争がもたらすもの」と表題をつけて署名し、広く頒布するよう指示されました。この写真は、長崎の原爆投下1カ月後に米国従軍カメラマンが撮影したもので、戦争がもたらす不幸、悲しみ、虚しさ、憤りを表しています。戦争は決して引き起こしてはなりません、という教皇様の強い意思が伝わってきました。

今年には第一次世界大戦終結100周年、インド独立の父マハトマ・ガンジー暗殺70周年、アフリカ系アメリカ人公権運動の指導者キング牧師暗殺50周年です。あらためて戦争と平和について考えさせられます。この一世紀の間、国際連盟設立、「国際紛争解決のため、および国策遂行の手段としての戦争の放棄」を誓ったパリ不戦条約締結、再度の大戦とその後の国際連合設立、東西冷戦、共産圏崩壊などがありました。一方、英仏ソ米などの100ほどの植民地が独立を果たしたことは幸いなことです。全体的に見ますと、

と、今日まで世界規模で平和と人権保護が希求されてきたと言えます。しかし、いまだ深刻な地域紛争、テロ、核兵器の脅威、難民問題、さまざまな形の差別、経済的格差および摩擦などが世界中の人々の平和を脅かしています。昨年7月には国連総会で122カ国と地域の賛成多数により核兵器禁止条約が採択されましたが、核兵器の全廃と根絶を目的として起草されたこの国際条約も、今年7月7日現在バチカン市国を含む11カ国しか批准していないという状況です。核兵器保有は抑止のためには必要であるという考え方が根強いからです。しかし核兵器保有は、むしろ軍拡競争の原因となり、ひいては経済の軍需産業依存、軍需と政治の癒着を来してしまいます。抑止とは、武力で平和を維持しようとする試みですから、敵対心、相互不信感、利権の衝突など対立の要因をいつそう深刻化させ、和解、和平、相互理解の基盤を徐々に崩壊してしまいます。世界が直面する喫緊の問題(環境、移民・難民、格差や貧困など)は、長年の抑止論と不均衡な経済制度から生まれてい

ます。また、テロ対策や安全保障を理由に言論統制が行われ、インターネット上

のサイバー攻撃や差別意識を煽るヘイトスピーチが横行し、スマホ依存症に起因するさまざまな問題も生じています。メディアは、特定の国や民族や宗教等について否定的な固定観念を作るのではなく、正確な情報を公平に提供し、相互理解を促すべきです。

わたしたちは、人間が神に象られて創造された高貴なものであり、全人類が一つの家族であると教えられています。また、人類は和解と相互愛によって連帯を構築する使命を神から与えられています。このような信仰と確信に基づいて、愛をもって真実を語り、互いに高め合い、きずなをつくるために情報を役立てるように努め

ましよう。また世界特に東アジアの情勢を常に注視し、為政者たちが自国の利益の優先ではなく相互の善益と平和を追求するために徹底した対話を忍耐強く続けることができるよう祈りましよう。

2018年7月7日  
日本カトリック司教協議会  
会長・カトリック長崎大司教 高見 三明

### 鹿兒島教区で働く聖職者による セクハラ・パワハラで悩んだら 子どもと女性の人権相談室

Tel.090 (3418) 2729  
※相談内容の秘密は厳守されます。

## 康由神父の聖書教室(5)

### 聖書の中の矛盾？

ゲマトリアから考える



聖書を読んでいると時折、矛盾したように思える場面に出会います。特に多くの方が疑問に持たれているのは、出エジプトの過程で青銅の蛇が救いとなった、という箇所です(民数記21・9)。確かに、創世記では蛇は神様に呪われました(創世記3・14)。しかし、民数記では、毒蛇に咬まれた者が旗竿の先に掲げられた青銅の蛇を見ることを命じられています。何とも納得できないことであり、理解

が難しいのではないのでしょうか。しかも、このことを踏まえてヨハネ福音書でイエス様は「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである」と語られました(ヨハネ3・14・15)。ということは、一見すると矛盾であるかのように思える「蛇」と「救い」との間には、どこかに共通点があるということなのです。

そこでゲマトリアを思い出し、折り返し、ゲマトリアとはアルファベットの一文字に数値を割り当て、ある単語の総数を計算し、それによりその単語に代えて表記する方法のことです(2013年11月参照)。「蛇」は英語のアルファベットで表記すればNH5です。Nは50、Hは8、そしてSは300ですから、合計が358となります。これに対して救いをもちたらず者、即ち、メシアを同

じく英語のアルファベットで表記すればMSYHです。Mは40、Sは300、Yは10、Hは8ですから、合計が358となります。ここから分かるように、蛇とメシアのゲマトリアは同じ数なのです。この共通点は現代の私たちにどうして暗号のようになってい

な気がしますが、神様から呪われた存在である蛇が救いをもたらすものとなる、という一見すると矛盾した話もゲマトリアを考えると「なるほど」と思えるものなのです。そして、ここに聖書を読み解く面白さがあるようにも思えます。



今年には第一次世界大戦終結100周年、インド独立の父マハトマ・ガンジー暗殺70周年、アフリカ系アメリカ人公権運動の指導者キング牧師暗殺50周年です。あらためて戦争と平和について考えさせられます。この一世紀の間、国際連盟設立、「国際紛争解決のため、および国策遂行の手段としての戦争の放棄」を誓ったパリ不戦条約締結、再度の大戦とその後の国際連合設立、東西冷戦、共産圏崩壊などがありました。一方、英仏ソ米などの100ほどの植民地が独立を果たしたことは幸いなことです。全体的に見ますと、

と、今日まで世界規模で平和と人権保護が希求されてきたと言えます。しかし、いまだ深刻な地域紛争、テロ、核兵器の脅威、難民問題、さまざまな形の差別、経済的格差および摩擦などが世界中の人々の平和を脅かしています。昨年7月には国連総会で122カ国と地域の賛成多数により核兵器禁止条約が採択されましたが、核兵器の全廃と根絶を目的として起草されたこの国際条約も、今年7月7日現在バチカン市国を含む11カ国しか批准していないという状況です。核兵器保有は抑止のためには必要であるという考え方が根強いからです。しかし核兵器保有は、むしろ軍拡競争の原因となり、ひいては経済の軍需産業依存、軍需と政治の癒着を来してしまいます。抑止とは、武力で平和を維持しようとする試みですから、敵対心、相互不信感、利権の衝突など対立の要因をいつそう深刻化させ、和解、和平、相互理解の基盤を徐々に崩壊してしまいます。世界が直面する喫緊の問題(環境、移民・難民、格差や貧困など)は、長年の抑止論と不均衡な経済制度から生まれてい

ます。また、テロ対策や安全保障を理由に言論統制が行われ、インターネット上



焼き場に立つ少年

ます。また、テロ対策や安全保障を理由に言論統制が行われ、インターネット上

のサイバー攻撃や差別意識を煽るヘイトスピーチが横行し、スマホ依存症に起因するさまざまな問題も生じています。メディアは、特定の国や民族や宗教等について否定的な固定観念を作るのではなく、正確な情報を公平に提供し、相互理解を促すべきです。

わたしたちは、人間が神に象られて創造された高貴なものであり、全人類が一つの家族であると教えられています。また、人類は和解と相互愛によって連帯を構築する使命を神から与えられています。このような信仰と確信に基づいて、愛をもって真実を語り、互いに高め合い、きずなをつくるために情報を役立てるように努め

## KJPP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 9月号

### 「なんじ、殺すなかれ」

(出エジプト記20・13)

### 死刑制度を考える

法務省は、オウム真理教による一連の事件で死刑が確定した元教団幹部の7人に対して7月6日、6人に対して7月26日、死刑を執行した。第二次安倍晋三内閣発足後の死刑執行は14回目、執行人数は計3人になる。上川陽子法務大臣によつては、これで16人の命が絶たれたことになる。日本カトリック正義と平和協議会(以後、日本カトリック正平協)は強く抗議する声明を発表した。特に今

回の1か月に13人もの大量執行は「近年類を見ない異様な」多さであり、死刑廃止へと向かう世界の趨勢に大きく反すると、生命は訴えている。

日本カトリック正平協「死刑廃止を求める部」会長ホアン・マシア神父は死刑反対の道徳的・宗教的理由として「死刑という国家による報復殺人」であると述べ、「今回の執行が日本にとつて『最後の執行』になるよう」あらゆる命の尊厳を守るという宗教的使命に基づき、死刑執行の即時停止と死刑制度の廃止を訴

えている。教皇フランシスコは「死刑に反対する気運が高まっていることは希望のしるしです。『殺してはならない』という掟は完全な価値をもっており、罪のない人にも犯罪者にも当てはまりません」と見解を示している。

海外では死刑制度を見直す国が増えていく。国際人権団体アムネスティ・インターナショナル日本によると2017年末現在、198カ国・地域のうち142カ国が廃止、停止し、経済協力開発機構OECD加盟35カ国で制度が残るのは日本と米国、韓国の3カ国のみ。韓国は1997年を最後に執行しておらず「停止国」に数えられている。

### お知らせ

#### ▼社会問題の分かち合い

(毎月第3土曜日)  
日時：9月15日13時  
場所：教区本部  
内容：原発・改憲についての情報交換、その他